



連帯責任

連帯責任とは、同集団に所属する複数の者が共同で責任を負うことです。(社員の失敗の責任を上司や会社自体も負うことがあります。それは、連帯責任とは異なる管理責任です。)

高校の野球部員が個人的に起こした不祥事により、チームが大会への出場を辞退する、或いは、連盟としてチームの出場資格を剥奪することがあります。高校野球に限らず、その種の話をするには、決して少なくはありません。

自分を律しようとするとき、そのことと所属集団は無関係なはず。個人の責任として、「悪いことをしてはいけない」のは当たり前のことです。自分を律することができなかつた一個人の不祥事等が発覚した際、既に事が決しているにも関わらず連帯責任を問われても、未然防止や解決のために力を尽くす「責任」の取り方は既に誰にもできません。不祥事を起こした個人に事の重大さを思い知らせ、集団全員に罰を与え、落胆と失意の中で、その恐怖心を集団の行動管理に利用する。その目的や効果は理解できますが、全く教育的ではありません。

責任は個人に帰属するものです。教育は、個々が自分で自分の責任を負える、自律した人格形成を目指すものです。連帯責任という名の理不尽な恐怖を、教育の場に安易に持ち込んではいけません。

普段から連帯責任を意識することで、学級がまとまって一体感が高まり、活動や学習の質が向上したり、全体の水準が上がったりするというプラスの効果につながることもあります。教師や学校側が管理しやすくするために、「個々が負うべき責任」を、学級の他の児童も関連付けて、「連帯責任」として威圧することは、まとまりや連帯感とは別問題です。間違っただ指導になっていないか、日々検証することは忘れてはいけません。

そう思いながらも、現実的には学校において、連帯責任的な手法を用いた指導を行うことはあります。希にはありますが、なぜ上記のように教育的とは言えない手法を取らざるを得ないのか。それは決して担任の個人的な方針や間違っただ価値観によるものではありません。担任が学級集団を一人で管理・指導しなければならない現在の小学校の学校制度の中では、日常的にたった一人で大人数の集団を掌握し、集団としての学級や学年全体を正しく導かなければなりません。そのような状況の中で、個々の児童の行動があまりにも身勝手だったり、考えが浅かったり、公共の福祉に反する行動が目立つ際や、学級集団の一員としての自覚を欠いた「傍観者」的な言動に対する指導が必要な場合など、やむを得ない場合に苦肉の策として、全体の前で厳しく指導したり、学級や学年全体に問題提起して考えさせる等、連帯責任的な手法をとらざるを得ないことはあります。そのような状況に陥らないようにするためには、担任が努力することはもちろんですが、望ましいクラスづくりのために、お互いに協力し合うことが欠かせないと思います。

これからも郡山小学校は、保護者との連携を大切にしながら、個々の児童がルールを守って、常に自らの責任と判断で行動することができ、その自律した個人が集まって互いに高め合うことができる学級集団・学校集団を目指して、教育活動を進めて参ります。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年12月9日 ()年 ()組 児童氏名

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp (校長直通)